



～海上保安庁からのお知らせ～



子供たちの命を**ライフジャケット**で守りましょう

～プレジャーボートで遊ぶ時、岸壁・防波堤等で魚釣りをする時は、
小さいお子さんへの安全対策をお願いします～

今年9月に、広島で転覆したヨットから海に投げ出された9歳と5歳の女の子が亡くなるという痛ましい事故が発生しました。また、1月には静岡県沖でプレジャーボートから海中転落した11歳の女の子と助けようとした父親が亡くなる事故が発生しており、いずれも、亡くなった女の子はライフジャケットを着用していませんでした。

過去5か年(平成14～18年)に発生した、**15歳以下**のプレジャーボートや岸壁等からの海中転落者は48名で、そのうち11名が亡くなっています。

事故者のライフジャケットの着用率は8%と極めて低く、亡くなった全員がライフジャケットを着用していませんでした。

一方、**ライフジャケット着用者の生存率は100%**となっています。

小さいお子さんと一緒に、プレジャーボートに乗るときや魚釣りに行くときには、**お子さん**はもちろんのこと、**保護者の皆様**につきましても、**常にライフジャケットを着用**するとともに、お子さんから目を離さないようにするなど、十分な安全対策をして、マリンレジャーをお楽しみください。

携帯電話の**防水パック**
も忘れずに！！

海で遊ぶときは
ライフジャケット
の常時着用！！

海のもしものは
118番ね！！



JAPAN COAST GUARD

大切な命！自分で守る

～ 自己救命策 3つの基本 ～

海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。

その1 ライフジャケットの常時着用

もし、海中転落した場合、まず海に浮いていることが大切です。
浮力を確保するには、**ライフジャケット**の着用が有効です。

その2 携帯電話等の適切な連絡手段の確保

次に、**速やかに救助要請**することが必要です。
防水パック入り携帯電話だと海中転落した場合でも通話が可能です。

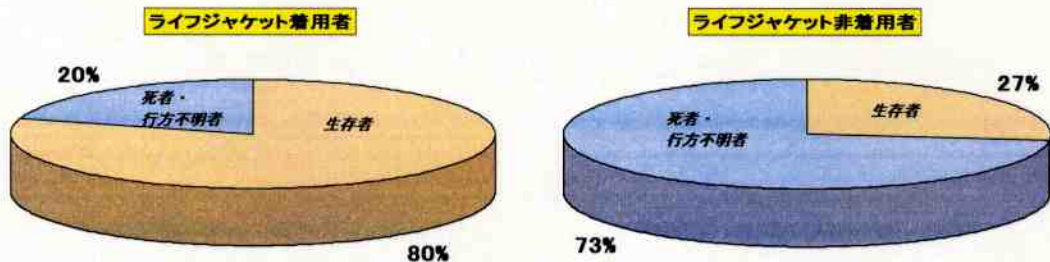
その3 「118番」の有効活用

そして、事故に遭ったとき、事故の発生を知ったときは
直ちに**118番に通報**してください。
関係救助機関と連携し、**直ちに救助**に向かいます。



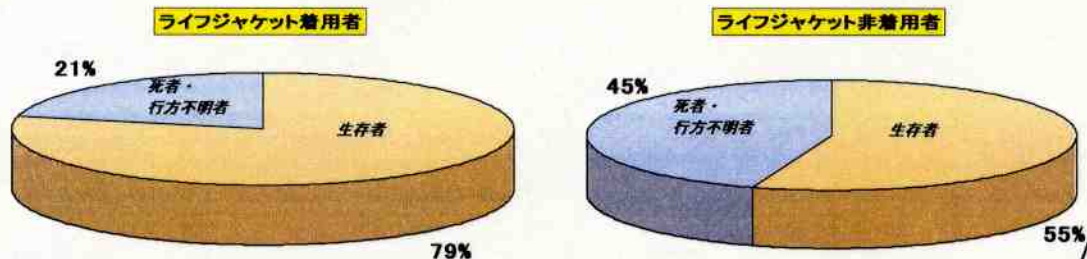
海中転落者等のライフジャケット着用、非着用による生存率の違い

● 船舶からの海中転落者等のライフジャケット着用、非着用による生存率



※ 数値は、平成18年における漁船・プレジャーボート等からの海中転落者の生存率です。

● 釣り中の海中転落者等の救命胴衣着用、非着用による生存率



※ 数値は、平成18年における釣り中の海中転落者の生存率です。